

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	ケアサポート・ワンズホーム	評価実施年月日	H 21. 9.20
評価実施構成員氏名	松山 奈美子. 他職員一同		
記録者氏名	松山 奈美子	記録年月日	H 21. 9.30

北海道



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「ゆっくり、いっしょに、たのしく」の基本理念を掲げ、その人らしさを尊重し、地域とのふれあいを大切に支援している。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日のミーティング等で理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。月1回は管理者を中心として全職員によるミーティングを実地している。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	日々の散歩や夏祭り等で、家族や地域の方々に理解を得られるよう努めている。ホームだよりや食事メニュー表を毎月送付している。	○	地域の人々には、まだ理解されていない様に思うので、内外的にアピールしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣所の方々と会った時は、気軽に挨拶し交流を深めている。ボランティアの来所・夏祭り等に声掛けをしている。ホーム菜園作りに協力して頂いている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	新年会・花見等に積極的に参加し、楽しい時間を過ごしている。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者の状況把握ができていなく、中々取り組みまで進めていない。	○	独居高齢者等に声掛けし、食事会等をして楽しんで頂ける機会を設けたり、事業所として役立つことがあれば、お手伝いをし地域貢献をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>毎年の自己評価・外部評価に目を通し、改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>日頃のサービスの取り組みを報告し、意見を取り入れているが、活かさきれていない部分もある。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>管理者はケアマネージャー連絡協議会の役員を行っており、連携は取れていると思う。</p>	○	市町村担当との意見交換の機会を設け、質の向上に取り組んでいきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>個々に必要な支援を活用出来るよう支援していく。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>講習会に参加した職員より報告があり、知識を深め見過ごされることがないように、注意や防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>家族や本人が、理解・納得し不安のない状態で入居して頂けるよう、十分な説明を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の不満や苦情は日々の会話から聴き取れる関係が出来ているが、その状態があった場合は、解消・改善に努めている。	○	今後も継続していく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	来訪時や毎月のお便りで、生活の様子や健康状態を報告し理解を得られるよう、努めている。 金銭管理は小遣い帳に記載し、月末で締め領収書を送付している。	○	職員全員が状況・情報を共有し今後も継続していく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来訪時に意見等を気軽に話して頂けるよう配慮し、意見要望はミーティング時に話し合いにより良い方向で支援が行える様努めている。 年1回 家族との親睦会実施	○	家族によって捉え方に違いがあるので、話しやすい雰囲気作りに努め、今後も継続していく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送りや気がついた時に、意見・提案を聞いてくれている。 連絡ノート・フリーノートを活用し意見を表出している。	○	個別面談等で意思疎通の機会を設けると良いと思う。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の要望には、柔軟な対応が出来ている。 勤務調整は難しい場合もあるが、対応できるように努めている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者さんとのコミュニケーションをとり、ダメージを最小限にするよう配慮している。	○	馴染みの関係と、“なあなあ”の線が分かりにくくなっているところがある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>研修・講習会等に希望を募り参加しているので、働く意欲につながる機会が増えている。</p>	○	<p>研修の報告をし技術の向上に努めている。 新人教育・他の施設での研修に取り組んでいきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>研修会等で交流の機会を持ち、向上していると思う。</p>	○	<p>交流を通して学習し、サービスの質の向上を図りたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>休憩室が別棟にあり、ゆっくり体を横にして休憩できる。 フリーノートに悩み等、何でも記入出来るようになっている。 年数回の親睦会がある。 体調が悪くないか気遣い、声掛けしてくれる。</p>	○	<p>ストレス軽減の為、相談できる環境作り・工夫をしていきたい。 例)パークゴルフ、カラオケ等</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>管理者は職員が資格等を持つことに対し、励ましの言葉を掛けたり前向きであると思う。</p>	○	<p>個人面談を行い、各々の考え・思いを吸収し、意欲の向上を図っていきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>困っている時は親身傾聴し、受け止めて解決するように努力している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>聴く機会も設け、受け止め安心して利用して頂けるよう努めている。</p>	○	<p>家族との良好な関係を構築できるよう、努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の意向を尊重し、支援している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に生活歴等を詳しく聞き、生活スタイルが変わらないように配慮し、無理のない生活支援を心掛けている。 体験入居して頂き雰囲気を感じてもらっている。	○	利用者の負担にならない支援をしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	出来る事は一緒に行い、出来ない所を支援していく。 気軽に話し合える人間関係の構築と、人生の先輩として尊敬し支えあう関係を築くように、常に心掛けている。	○	人として、人生の先輩として尊敬の念を持ち、職員間でよく検討し、共に支えあえる関係を築いていきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時にはコミュニケーションを取り交流を深め、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	面会の機会を多く持ち、今まで以上のより良い関係を保っていけるよう支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	来訪者が帰る時は玄関まで見送りし、再度の来訪を楽しみにしている様子を見て頂く。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	1人ひとりの性格や行動を把握し、仲良く暮らせるように食堂の座席の工夫や、居間のソファでの位置等の配慮をし、孤立せずお互いが関わりあえる環境作りに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去した家族も行事への声掛けをすると、夏祭り等参加して下さったり来訪してくれる。街で会った時には声掛けをしている。	○	人間関係の絶ち消えない事業所でありたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしい生活が送れるように、希望や意向を詳しく聞ける環境作りをしている。	○	センター方式をもっと活用していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個人ファイルを参考にして、経過の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の申し送りの中で心身の状態を把握する様に努め、無理のない声掛けをし、現状に合わせた前向きな生活の支援を心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の意向を聞き、ミーティングにて意見やアイデアを出し合い適切なケアが出来るように、担当者がプランを立てケアマネージャーがまとめ作成する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	○	「気づき」の重要性を課題とし、小さな変化にも適切に対応できるように配慮していきたい。
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	○	今後もより良い支援につながるように活用していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		利用者、家族の皆さんに大変喜ばれている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p> <p>月2回、定期的に往診して頂き安心できる医療支援をしている。体調変化時には、相談・助言・指示をあおいでいる。</p>	○	状況に応じた適切な判断と対応を継続していく。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p> <p>認知症専門医に定期的を受診し、相談したり治療を受けている。</p>		
45	<p>○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p> <p>看護師が、健康管理や医療支援をしている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p> <p>早期退院に向けて病室を訪問し、関係者と情報交換や相談に努めている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p> <p>終末期は家族の意向を聞き、話し合い情報の共有化を図っているが、時期等難しい点もある。</p>	○	終末期には時期の見極めや家族との信頼関係を深め、職員や家族共に方針をしっかりと把握できるようにしていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> <p>職員・かかりつけ医・家族との連携を図り、どんな状況にも対応できるように、検討・相談をしているが十分とは言えない時もある。</p>	○	各々関係者が悔いの残らないよう、何が最善であるか検討を重ねていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>情報交換を密にし、ダメージを未然に防ぐように努めている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人情報の取り扱いは慎重にし、ファイルの保管場所にも配慮している。</p>	○	<p>慣れの姿勢に気を付け、誇りを損なわない声掛けを継続していきたい。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>声掛けや会話にて理解をし自分の思いを尊重し、自己決定できるように確認しながら支援している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日常的にその人らしい暮らしが何かを考え、実現できるように努めている。散歩・ドライブ等利用者のペースに合わせて支援している。</p>	○	<p>職員の都合を優先してしまうことがあるので、個人のペースを大切に支援をしていきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容・美容・顔そり等は、直接に出向いたり、来所してもらいその人らしい髪型となっている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>1人ひとりの好みの量に合わせて盛付ている。刻み食・ミキサー食にも対応している。利用者の能力に応じ、意欲を優先させながら、盛つけ・下膳・食器洗い・食器拭き等を一緒に行っている。会話をしながら同じ食卓で職員も一緒に食事をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好品は、状況に合わせて体重増加や水分摂取等を考慮しながら体調管理をし支援している。 酒・たばこも管理しながら支援している。 個人の飲食物は名前を記入し賞味期限内に食して頂いている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、声掛け誘導にて気持ちよくトイレで排泄できるよう支援している。失敗を未然に防ぐよう努めている。	○	おむつ使用を減らすことが今後の検討課題である。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時、本人の希望を聞いて対応するよう心掛けている。 重度の利用者は、安全に配慮し2人介助で行っている。 入浴拒否時は無理強いはいしない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個人の生活習慣を把握し、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう、状況に応じて支援している。 添い寝をしたり、居間で一緒にくつろいで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	玄関掃除・ボロ布切り・雑巾縫い・調理の下ごしらえ等、負担にならない範囲で役割を持って生活している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の能力に応じて所持しており、外出時等おみやげを購入し、お金を使う楽しみや大切さを理解して頂けるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	体力維持や気分転換の為、散歩・ドライブ等日常的に支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ドライブに出掛けたり、コンサート等を鑑賞に出掛けている。 温泉一泊観劇ツアーには、家族の参加もある。 外出の少ない利用者も通院時等外食を楽しんで頂いている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	居室に電話をつけ、家族との連絡・会話を楽しんでいる利用者も数名いる。 家族からの贈り物が届いた場合は、家族に写真添付の近況報告の礼状を差し上げている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に来所して頂きゆっくりと過ごせるように、挨拶や声掛け等をおもてなしをし気配りをしている。 居心地よく過ごせるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員で取り組み正しく理解し、拘束のないケアの実践をしている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室・日中の玄関の鍵はかけておらず、家族等の出入りが自由であり、目配りや気配りをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜を問わず所在の確認は、職員間で声掛けし把握している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	能力に応じ、ハサミ・縫い針等対応している。見守りや声掛けで確認も徹底している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々の状況にあわせて常に配慮し、ヒヤリハットを活用して、事故防止に取り組んでいる。緊急発生時には、適切な対応ができるよう知識を学んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変応急手当の訓練は、個々に受けるようにしているが十分とは言えない。	○	職員の技術向上の為に、定期的に取り組めるようにしていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署・業者の協力を得て避難訓練を年2回実施している。災害時には対応できず、パニックになると思われる。	○	地域の方々にも参加を呼びかけ、シュミレーションや具体的な避難方法を検討してみたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	リスクばかりに目を向けるのではなく、日々の生活が大切であり、その中にリスクがあることを理解して頂き、ミーティングで話合っている。	○	職員全員が同じ対応ができるように、意志の統一や問題意識を持ち業務にあたるように努力していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の申し送り・バイタルチェック・体調変化等を勤務者全員が把握できるように情報の共有化を図り、速やかな対応を心掛けている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイル・服薬ノートにて、目的・副作用・容量・用法を理解している。誤薬防止の為、2人で確認するように努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分補給(ポカリゼリー)・野菜類の摂取等工夫をしている。身体を動かす働きにまでは取り組めていない。下剤・センナ茶等にて対応している。	○	服薬にたよりがちである為、身体を動かす機会を増やしていきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自力で口腔ケアのできない利用者には、できないところの支援や見守りや点検を行っている。毎食後は十分に行われていない。週2回義歯洗浄を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	月始めに体重測定をしている。肥満傾向の利用者には、食事量の調整を行っている。栄養士によるバランスに配慮した献立を作成している。重度の利用者には水分・食事量を記入し摂取量を把握できるよう支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい・手洗いの励行・人混みの場所への外出時はマスクの装着を徹底している。マニュアルは作成されているが、活用はうすい。玄関・洗面所に消毒薬を配置している。予防接種も実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日夕食後に食器・調理用具の殺菌消毒を行っている。 ホーム菜園で採れた安全で新鮮な野菜を食材として使用している。 冷蔵庫・冷凍庫・地下保存庫の整理・整頓も定期的に行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先にプランターや鉢植え等があり、明るい雰囲気である。 玄関内も四季折々の花を飾り工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	四季折々の花を飾ったり、年中行事に合わせ、おひなさま・五月人形・七夕飾り・クリスマスツリー等、その他に絵画・写真・利用者が書いた習字等を飾り生活感や季節感を取り入れ、居心地よく過ごせる工夫をしている。 ながしが2カ所あり、共有スペースも広い。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間に沢山のソファがあり、気の合う人同志で談笑したりくつろげる居場所の工夫をしている。 家族も一緒にくつろいで頂けるように配慮をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、使い慣れたなじみの家具・思い出の品・仏壇を持ってきている利用者もあり、安心して過ごせる工夫や配慮がされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	適時に換気を行っている。 冬期間は乾燥しやすい為、湿度管理に注意をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーである。 廊下・トイレ等に手すりを設置している。 エレベーターを設置している。 廊下が広く、安全に移動ができるように配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	カレンダー・時計がどこからでも見えるようにし、日時がわかるように配慮している。 残存能力を考慮し、声掛けや見守りや一部介助することで自立できるように支援している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	高山植物の庭園と花畑があり、四季折々の花々が咲き、ベンチも設置してある為、日光浴や散歩を楽しんで頂いている。 危険がないよう見守りが徹底されている。 ベランダよりスロープを設置し、車椅子で庭に出られる配慮がされている。 ホーム菜園で野菜を作ったり、収穫したり活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 食事がおいしい。食物形態の工夫。介助等個々に合わせた対応が出来ている。外出、外食に行く機会が多い。散歩時近所の方と気軽に挨拶をかわしている。毎月、ワンズホームたよりを18名個々に作成し近況報告を行っている。